

キョーリン製薬グループの歩み

当社グループの中核子会社である杏林製薬(株)の創業から99年。私たちは、主に新薬の研究開発・製造・販売を通じて、患者さんの治療に貢献してきました。2010年度に策定した長期ビジョン「HOPE100」では、人々の多様なニーズに応えるべく、病気の予防・治療、健康の維持・増進に関連する事業を幅広く行うキョーリン製薬グループへと発展してきました。そして現在、中期経営計画「HOPE100－ステージ3－」のもと、革新的新薬の創製で世界に認められる企業の実現を目指し、新薬事業、後発医薬品(ジェネリック：GE)事業、感染関連事業(感染症の予防・診断・治療)を展開しています。



1923 ----->> 2022 ----->> 2023

長期ビジョン「HOPE100 (2010～2023年度)」

中期経営計画 ステージ1 2010～2015年度			中期経営計画 ステージ2 2016～2019年度			中期経営計画 ステージ3 2020～2023年度		
●2013年 喘息治療配合剤「フルティフォーム」発売 ●2015年 「FPR2作動薬プログラム」をプリストル・マイヤーズスクイブ社(米)へ導出			●2016年 アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」発売 ●2018年 定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス」の国内独占販売権を取得 ●2019年 マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC」発売			●2021年 間質性膀胱炎治療剤「ジムソ」発売 ●2022年 咳嗽治療薬「リフヌア」発売		
杏林製薬(株)はこれまで重点領域の一つとして感染症の研究を進めてきました。その中でキノロン剤の研究を行い、世界初のニューキノロン系経口抗菌剤「ノルフロキサシン(製品名：バクシダール)」を創製しました。同剤は、1980年米国メルク社へ導出、世界約140カ国で発売されました。その後、「フレロキサシン(同：メガロシン)」「ガチフロキサシン(同：ガチフロ)」の開発を経て、今日「ラスクフロキサシン(同：ラスビック錠・点滴静注キット)」の販売を行っています。また治療薬のほかにも、環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」、消毒剤「ミルトン」、マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC」等、予防・診断へと感染症対策のフィールドを広げています。▶P.22			●2012年 環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」発売 ●2017年 杏林製薬(株)が(株)ジェイタスの株式を取得、吸収合併(診断事業参入) ●2019年 マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC」発売			●2020年 ニューキノロン系経口抗菌剤「ラスビック錠」発売 ●2021年 ニューキノロン系注射用抗菌剤「ラスビック点滴静注キット」発売 ●2022年 「GeneSoC SARS-CoV-2 N2検出キット」を体外診断用医薬品として発売 ●2023年 抗ウイルス剤「ラゲブリオ」のコ・プロモーション開始		
●2010年 商号を(株)キョーリンからキョーリン製薬ホールディングス(株)へ変更 ●2012年 MSD滋賀工場を取得し、キョーリン製薬グループ工場(株)(本社：滋賀県)を創業 ●2013年 神田駿河台「御茶ノ水ソラシティ」に本社移転 ●2015年 創業研究所(旧中央研究所)及び開発研究所(旧研究センター)を集約し杏林製薬(株)わたらせ創業センター設置			●2016年 岡谷工場閉鎖 ●2017年 キョーリン リメディオ(株)高岡創剤研究所設置 ●2018年 新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(株)(本社：東京都)稼働			●2020年 キョーリン製薬グループ工場(株)とキョーリン メディカルサプライ(株)が合併 ●2022年 東証プライム市場に上場 ●2023年 杏林製薬の吸収合併を決議し、合併契約締結(効力発生は2023年4月)		

中期経営計画 ステージ1 2010～2015年度			中期経営計画 ステージ2 2016～2019年度			中期経営計画 ステージ3 2020～2023年度		
●1961年 利尿・降圧剤「ベバイド」発売 ●1965年 鎮痛剤「キョーリンAP2」発売 ●1971年 経口血糖降下剤「デアメリンS」発売 ●1971年 脂質代謝・末梢血行改善剤「コレキサミン」発売			●1974年 代用血漿・体外循環系剤「ヘスパンダー」発売 ●1981年 気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」発売 ●1989年 気管支喘息・脳血管障害改善剤「ケタス」発売			●1996年 潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」発売 ●2001年 気管支喘息治療剤「キプレス」発売 ●2007年 過活動膀胱治療剤「ウリトス」発売		
●1980年 「ノルフロキサシン」をメルク社(米)へ導出 ●1982年 「ノルフロキサシン」をアストラ社(スウェーデン)、リアーデ社(スペイン)へ導出 ●1983年 「ノルフロキサシン」をアメリカンホームプロダクツ社(米)へ導出 ●1984年 広範囲経口抗菌剤「バクシダール」発売			●1986年 「フレロキサシン」をF.ホフマン・ラ・ロシュ社(スイス)へ導出 ●1989年 広範囲抗菌点眼剤「バクシダール点眼液」発売 ●1993年 持続型ニューキノロン剤「メガロシン」発売 ●1996年 「ガチフロキサシン」をプリストル・マイヤーズスクイブ社(米)へ導出			●1998年 「ミルトン」事業をP&Gより買収 ●2000年 「ガチフロキサシン点眼液」をアラガン社(米)へ導出 ●2002年 広範囲経口抗菌剤「ガチフロ」発売		
●1923年 杏林製薬(株)の前身である東洋新薬社を創業 ●1931年 杏林化学研究所を設立 ●1940年 杏林化学研究所を杏林製薬(株)に改称 ●1947年 販売部門を独立して杏林薬品(株)を設立 ●1967年 野木工場開設			●1977年 中央研究所開設 ●1992年 杏林製薬(株)・杏林薬品(株)合併 ●1995年 能代工場開設 ●1996年 研究センター設置 ●1999年 東証市場第2部に上場 ●2000年 東証市場第1部に指定			●2002年 ドイツにKyorin Europe GmbHを設立 ●2004年 米国のActivX Biosciences, Inc.を子会社化 ●2005年 東洋ファルマー(株)(現キョーリン リメディオ(株))の株式を取得(子会社化) ●2006年 (株)キョーリンとの株式交換により、持株会社体制へ移行 ●2008年 杏林製薬(株)・日清キョーリン製薬(株)合併		

製品の歴史

感染症領域

経営基盤に関わる内容